〔理　科〕

全国・県を上回る

理科は、抽出された問題10問に回答しました。全国平均を上回ったのが6問、下回ったのが4問でした。

(1) 全国との比較（全国の平均正答率と比べて）

③ 高かった問題（正答率が全国を5ポイント以上、上回ったもの）　10問中1問

・地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する

（「露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうか」を見取る問題です）

④ 低かった問題（正答率が全国を5ポイント以上、下回ったもの）　10問中2問

・生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する

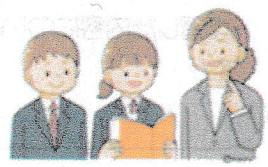
（「水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうか」を見取る問題です）

・抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する

（「身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうか」を見取る問題です）

(2) 全体的な傾向

・身近な生物や身近な現象を理科で学習したことと関連付け考察することやスケッチなどの基礎的な技能の習得が十分ではない。
・基礎知識や科学的な思考については、高い傾向がある。
・生命、粒子、エネルギーの各領域での偏りは見られない。



(3) 今後の取組

・全体として全国・県を若干上回っているという結果であった。10問中6問は全国を上回っていた。
・知識の定着だけでなく、それを活用する力を育むために身近な物資を使っての化学変化や物理現象を体験する実験や生物を観察する機会を増やしていく。
・疑問を解決するために、仮説を立て、実験方法を考え、結果を考察する一連のプロセスをグループ活動で実践する。
・これらの取組を通じて、生徒が理科を「教科書の中の知識」としてではなく、「日常生活と深く結びついた面白い学問」として捉え、自ら学びを深める意欲を引き出すことを目指す。